

博物館リンクワーカー人材養成講座

「withコロナでも地域住民とつながっていく方法を考える」

カナダの医師会は2018年10月から、患者の健康回復を促進する治療の一環として、美術館への訪問を「処方箋に書く」取り組みを始めています。医師会とモントリオール美術館が連携し、心身にさまざまな健康問題を抱える患者とその家族などが、無料で美術館に入館し、芸術文化の健康効果を楽しむことができました。

また、英国のウェストミンスター大学のAngela Clow氏は、ロンドンの労働者を対象に、昼休みにアートギャラリーを短時間訪問の前後で、ストレスマーカーとなる「コルチゾール検査」を行いました。訪問時はかなり高い値を示しましたが、見学後の数値は正常値に戻っていました。美術作品を昼休みの短時間に見るだけでも、ストレスの軽減になると報告しました(2006年)。

ところで、日本では団塊世代が75歳以上になる「2025年問題」に続き、団塊ジュニア世代が全て高齢者になる「2042年問題」が浮上し、社会保障費の増大、勤労世代の減少が大きな課題です。

そこで、本事業では、カナダをはじめ、米国、英国、台湾などの事例調査をもとに、高齢者の「博物館浴*」プログラム開発、そして医療・福祉従事者と高齢者、博物館などをつなぐリンクワーカー人材育成を目指すことで、「2042年問題」解決に向けた社会資源の新たな活用方策＝社会的処方箋の場となる「博物館健康ステーション」運用、さらに地域の高齢者医療の新たな枠組みを提案したいと考えます。

今回の連続講座は、「オンライン語り場」と名づけています。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)がなかなか収まらない中でも、地域の博物館、美術館などを活用しながら、高齢者をはじめ、地域住民とのつながりを粘り強く実践する医療・福祉従事者、大学教員、博物館学芸員からの話題提供を受け、その後は参加者と一緒に意見交換を行う「語り場」とします。

こうした「語り場」を通じて、地域の社会教育施設、医療・福祉機関が協働した「誰もが全国5,700ある博物館のリンクワーカー」という、新たな地域人材育成の方策やプログラム開発を考える機会を共に作りましょう。

* 博物館浴：博物館見学を通して、博物館の持つ癒し効果を人々の健康増進・疾病予防に活用する活動

「オンライン語り場」日程一覧

回数	開催日	タイトル	講師	開催時間
1	11月11日(金)	「博物館浴」研究の最前線	緒方 泉 (九州産業大学)	13:30~15:00 話題提供30分、 その後は「語り場」 *11/18のみ 18:00~19:30
2	11月18日(金)*	「オンライン博物館浴プログラム」の実際	井上 幸一 (福岡女子短期大学) 中込 潤 (九州産業大学美術館)	
3	11月25日(金)	「地域の生活」を美術館で展示する	山下 弘子 (坂本善三美術館)	
4	12月2日(金)	高齢者の記憶をもとにした「ふるさと絵屏風」を通じた活躍の場づくり	竜王 真紀 (甲賀市水口地域包括支援センター、保健師)	
5	12月9日(金)	高齢者が美術館を楽しむために ～シニアプログラムの実践を通して～	鬼本 佳代子 (福岡市美術館)	
6	12月16日(金)	高齢者施設の民具を用いた「地域回想法」の実際	長谷川 健 (老人保健施設アルカディア水見、脳外科医)	

開催方法	Zoomによるライブ配信双方向型ミーティング	定員 >>> 各回30名	受講料 >>> 無料
参加対象	博物館・図書館/医療・福祉従事者、大学教員、学芸員有資格者で「高齢者の健康と博物館」に関心がある方、博物館学を学ぶ学生等		

博物館リンクワーカー人材養成講座

オンライン語り場

第1回 11月11日(金)

時間:13:30~15:00 (受付)13:15~

「博物館浴」研究の最前線



英国、米国、イタリアなどで進む「博物館浴」研究論文や森林浴研究の実験方法を用いた、地域住民などを対象とした「博物館浴」実証データの紹介などから、研究の今と今後の方向性についてお話しします。

緒方 泉 (Izumi OGATA)
九州産業大学地域共創学部地域づくり学科教授

第2回 11月18日(金)

時間:18:00~19:30 (受付)17:45~

「オンライン博物館浴プログラム」の実際

2021年から始めた福岡県筑紫野市の介護施設職員向けの「オンライン博物館浴プログラム」。caregiverのストレス軽減、リサーチパートナーとの協働的なプログラム開発の実例について報告します。



井上 幸一 (Koichi INOUE) 福岡女子短期大学音楽科准教授
中込 潤 (Jun NAKAGOME) 九州産業大学美術館学芸室長

第3回 11月25日(金)

時間:13:30~15:00 (受付)13:15~

「地域の生活」を美術館で展示する



小国町内の医療・福祉分野の皆さんと連携し、50歳以上の方々のさまざまな活動を「人生の表現」として紹介する展覧会「Over50(オーバーフィフティ)で楽しむ善三展」についてお話しします。

山下 弘子 (Hiroko YAMASHITA)
熊本県 / 坂本善三美術館学芸員

Photo by Kai Kawazu

第4回 12月2日(金)

時間:13:30~15:00 (受付)13:15~

高齢者の記憶をもとにした「ふるさと絵屏風」を通じた活躍の場づくり



昭和初期の記憶をもとにした「ふるさと絵屏風」の制作支援を市内6地域で行った。今回は制作された絵屏風を高齢者自身が出前講座やツーリズム等で活用する機会を創る、高齢者の活躍の場づくりを紹介いたします。

竜王 真紀 (Maki RYUO)
滋賀県 / 甲賀市水口地域包括支援センター所長、保健師

第5回 12月9日(金)

時間:13:30~15:00 (受付)13:15~

高齢者が美術館を楽しむために～シニアプログラムの実践を通して～



社会教育施設・生涯学習施設として美術館は高齢者とう向きあうか。福岡市美術館が実施する65歳以上を対象とした「いきヨウヨウ講座」や他館と連携したオンライン回想法などを通して考えます。

鬼本 佳代子 (Kayoko ONIMOTO)
福岡市美術館主任学芸室長

第6回 12月16日(金)

時間:13:30~15:00 (受付)13:15~

高齢者施設の民具を用いた「地域回想法」の実際



草深い山裾の老人保健施設です。氷見市立博物館の貸出し民具(海綿、山繻)を用いて、認知症高齢入所者のケアや家族介護教室で懐かしい思い出を語り合う地域回想法の事例をお話しします。

長谷川 健 (Takeshi HASEGAWA)
富山県 / 老人保健施設アルカディア氷見施設長、脳外科医

【参加にあたっての注意事項】

- ① 参加にはWi-Fiなどの安定した通信環境と、インターネットに接続したパソコンやタブレット、スマートフォンが必要になります。
- ② 円滑な参加のために、事前に「ミーティング用Zoomクライアント」をインストールしておくことをお勧めします。インストールはこちらをご参照ください。
https://zoom.us/download#client_4meeting
- ③ ZoomのURLの転送、視聴中の録画や録音は固く禁じます。

メール申込はこちら



申込方法

受講希望の方は、①件名:連続講座 ②内容:氏名(ふりがな)、所属、職名、この連続講座に期待することを書いて、E-mail: museum03@ip.kyusan-u.ac.jp へ、お申込みください。
なお、申込締切は10月21日(金)とします。単発参加希望の場合はお問い合わせください。

参加対象

博物館・図書館/医療・福祉従事者、大学教員、学芸員有資格者で「高齢者の健康と博物館」に関心がある方、博物館学を学ぶ学生等

開催方法

Zoomによるライブ配信双方向型ミーティング

定員 >>> 各回30名

受講料 >>> 無料

問合せ先

中込 潤 (実行委員会事務局長、九州産業大学美術館学芸室長) E-mail: museum03@ip.kyusan-u.ac.jp

事業責任者

緒方 泉 (九州産業大学地域共創学部教授)



〒813-8503 福岡県福岡市東区松香台2-3-1
tel 092-673-5160 / fax 092-673-5757
ksumuseum@ip.kyusan-u.ac.jp
<https://www.kyusan-u.ac.jp/ksumuseum/>

主催

主催:「2042年問題」解決に向けた社会資源を活用した「健康寿命」増進プログラム開発とリンクワーカー人材育成事業実行委員会(代表<九州産業大学美術館>、九州大学総合研究博物館、海の中道海洋生態科学館、福岡市博物館、福岡市美術館、田川市石炭・歴史博物館、直方谷尾美術館)

